

平成29年第3回士別市議会定例会会議録（第4号）

平成29年10月27日（金曜日）

午前10時00分開議

午前10時30分閉会

本日の会議事件

開議宣告

諸般の報告

- 日程第 1 認定第 1号 平成28年度士別市一般会計歳入歳出決算認定について
認定第 2号 平成28年度士別市国民健康保険事業特別会計歳入歳出決算認定について
認定第 3号 平成28年度士別市後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算認定について
認定第 4号 平成28年度士別市介護保険事業特別会計歳入歳出決算認定について
認定第 5号 平成28年度士別市地方卸売市場事業特別会計歳入歳出決算認定について
認定第 6号 平成28年度士別市公共下水道事業特別会計歳入歳出決算認定について
認定第 7号 平成28年度士別市農業集落排水事業特別会計歳入歳出決算認定について
認定第 8号 平成28年度士別市水道事業会計決算認定について
認定第 9号 平成28年度士別市病院事業会計決算認定について
- 日程第 2 意見書案第5号 林業・木材産業の成長産業化に向けた施策の充実・強化を求める意見書について
意見書案第6号 軽油引取税の課税免除特例措置の継続を求める意見書について
意見書案第7号 道教委「新たな高校教育に関する指針」を抜本的に見直しすべての子どもに豊かな学びを保障する高校教育を求める意見書について

閉会宣告

出席議員（17名）

副議長	1番	谷口隆徳君	2番	喜多武彦君
	3番	大西陽君	4番	村上緑一君

5番	渡辺英次君	6番	谷守君
7番	松ヶ平哲幸君	8番	岡崎治夫君
9番	国忠崇史君	10番	山居忠彰君
11番	十河剛志君	12番	出合孝司君
13番	遠山昭二君	14番	井上久嗣君
15番	粥川章君	16番	斉藤昇君
議長 17番	丹正臣君		

出席説明員

市長	牧野勇司君	副市長	相山佳則君
市立病院副院長	三好信之君	総務部長(併)選挙管理委員会事務局長	中峰寿彰君
市民部長	佐々木幸美君	保健福祉部長	田中寿幸君
経済部長	井出俊博君	建設水道部長	沼田浩光君
朝日総合支所長	法邑和浩君	市立病院理事務局長	加藤浩美君

教育委員会会長	五十嵐紀子君	教育委員会会長	安川登志男君
教育委員会生涯学習部長	村上正俊君		

農業委員会会長	松川英一君	農業委員会会長	武田泰和君
---------	-------	---------	-------

監査委員	吉田博行君	監査委員局長	穴田義文君
------	-------	--------	-------

事務局出席者

議会事務局局長	浅利知充君	議会事務局局長	岡崎浩章君
議会事務局総務課主幹	前畑美香君	議会事務局総務課主幹	駒井靖亮君

(午前10時00分開議)

○議長（丹 正臣君） おはようございます。

ただいまの出席議員は全員であります。

これより本日の会議を開きます。

○議長（丹 正臣君） ここで、事務局長より諸般の報告をいたします。

○議会事務局長（浅利知充君） 御報告申し上げます。

本日の議事日程及び諸報告については、印刷の上、お手元に配付のとおりでありますので、朗読を省略いたします。

以上で報告を終わります。

(朗読を経ないが掲載する)

1. 指定している専決処分について市長から送付された報告は次のとおりである。

損害賠償の額を定めることについて

2. 議会運営委員会から送付された議案は次のとおりである。

意見書案第5号 林業・木材産業の成長産業化に向けた施策の充実・強化を求める意見書について

意見書案第6号 軽油引取税の課税免除特例措置の継続を求める意見書について

意見書案第7号 道教委「新たな高校教育に関する指針」を抜本的に見直しすべての子どもに豊かな学びを保障する高校教育を求める意見書について

3. 議員の派遣についての報告は次のとおりである。

(1) 土別ふるさと大使との意見交換会

イ. 派遣場所 東京都

ロ. 派遣期間 平成29年10月20日

ハ. 派遣議員 丹議長、岡崎議員、粥川議員、十河議員

(2) 東京土別ゆかりの会

イ. 派遣場所 東京都

ロ. 派遣期間 平成29年10月21日

ハ. 派遣議員 丹議長、岡崎議員、粥川議員、十河議員

(3) 川内ふる里まつり

イ. 派遣場所 福島県川内村

ロ. 派遣期間 平成29年10月20日から22日

ハ. 派遣議員 谷議員、村上議員

4. 議長会等の関係については次のとおりである。

(1) 上川北部市町村議会議長会（9月定例会）

- イ. 開催日 平成29年10月10日
 - ロ. 開催地 名寄市
 - ハ. 出席者 丹議長
 - ニ. 会議概要 平成30年1月定例会について外2案件を協議し、情報交換を行い終了した。
- (2) 北海道市議会議長会道北支部議長会
- イ. 開催日 平成29年10月12日
 - ロ. 開催地 富良野市
 - ハ. 出席者 丹議長
 - ニ. 会議概要 平成29年度道北支部議長会事業計画について外4案件を協議し、情報交換を行い終了した。
- (3) 北海道市議会議長会正副会長会議・役員会
- イ. 開催日 平成29年10月19日
 - ロ. 開催地 士別市
 - ハ. 出席者 丹議長
 - ニ. 会議概要 トヨタ自動車士別試験場の視察を行った後に、正副会長会議において役員会の運営について協議し、役員会において平成30年度北海道市議会議長会事業計画について外7案件を審議、全国市議会議長会第103回評議員会に提出する議案について外6案件を協議した。

以上報告する。

平成29年10月27日

士別市議会議長 丹 正 臣

○議長（丹 正臣君） それでは、これより議事に入ります。

日程第1、認定第1号 平成28年度士別市一般会計歳入歳出決算認定についてから、認定第9号 平成28年度士別市病院事業会計決算認定についてまで、以上9案件を一括議題に供します。

提案者の説明を求めます。牧野市長。

○市長（牧野勇司君）（登壇） おはようございます。

ただいま議題となりました認定第1号 平成28年度士別市一般会計歳入歳出決算認定から、認定第9号 平成28年度士別市病院事業会計決算認定についてまで、一括して御説明申し上げます。

28年度において、国は、雇用や所得環境については徐々に改善してきた反面、個人消費や民間投資に力強さを欠いた状況にあったことから、低迷する個人消費を喚起するとともに、一億総活躍社会の実現に向けて、緊急に実施すべき取り組みを進めるため、3兆円規模の27年度補正予算を編成しました。

この補正予算と当初予算を切れ目なく執行することで、少子高齢化という構造的な問題の克服や、デフレからの脱却と経済再生に向けた取り組みを進め、経済の成長と分配の好循環の実現を目指したところです。

また、地方に対しては地域の経済再生と財政健全化の両立に向けて、地方財政計画における歳出特別枠の見直しを進め、地方交付税上の別枠加算を廃止したほか、トップランナー方式を導入した一方で、引き続き、まち・ひと・しごと創生事業費として1兆円を計上するなどにより、安定的な財政運営に必要な一定の財源確保がなされました。

歳出面では、地方の重点課題である少子高齢化対策や自治体情報システム改革などへの取り組みのほか、一層の行政財政改革の推進や公共施設の総合的かつ計画的な管理を行っていくため、公共施設等総合管理計画の28年度末までの策定などを求めたところです。

こうした中で、本市の財政運営においては、総合計画に基づく各種施策に取り組む一方で、中期財政フレームに基づき、健全で持続可能な財政基盤の確立に努めたほか、最重要課題である市立病院改革プランの達成に向けて鋭意努力するとともに、公共施設の最適化を実現していくため、土別市公共施設マネジメント基本計画を策定しました。

この結果、平成28年度の各会計の決算は、水道事業会計において純損失が発生したものの、その他の各会計においては、黒字あるいは収支均衡を確保する中で、懸案事項の解決に向けた施策を推進することができました。

しかしながら、今後においても、人口の減少や市町村合併特例加算の縮減などによる地方交付税の減少が見込まれることから、将来に向けて持続可能な財政基盤を構築するため、29年度で最終年となる中期財政フレームに基づき、各事業を執行していくとともに、新たな財政運営の指針となる行財政運営戦略の策定と、土別市公共施設マネジメント基本計画に基づく公共施設の適切な管理など、行政全般にわたる改革を進めてまいります。

この後、平成28年度の各会計の決算概要について、相山副市長から説明いたしますので、よろしく願い申し上げます。（降壇）

○議長（丹 正臣君） 相山副市長。

○副市長（相山佳則君）（登壇） それでは、私から平成28年度各会計の決算概要を御説明申し上げます。

御審議をいただき、28年度の一般会計、各特別会計及び企業会計については、それぞれ法定日をもって出納閉鎖し、会計管理者から決算書及び一連の関係書類の送付を受け、直ちに監査委員の審査に付したところであり、監査委員からは9月19日付で、計数は正確であり、予算執行事務が適正に行われているとの御意見をいただきました。

最初に、土別市一般会計歳入歳出決算から土別市農業集落排水事業特別会計歳入歳出決算について御説明申し上げます。

28年度においては、本市の地方創生総合戦略に基づく、農業未来都市、合宿の聖地創造に向けた事業を初め、総合計画に基づき、子育て環境の整備や各種福祉施策の推進、地域医療の充

実、農林業・商工業振興施策の展開、教育環境の整備などの各種事業を実施してきました。このほか、いきいき健康センター、環境センターなどの大型建設工事が竣工したところであり、本庁舎改築に向けて基本設計策定業務を実施するとともに、平成27年度に取りまとめた公共施設白書をもとに土別市公共施設マネジメント基本計画を策定しました。また、引き続き、市民パートナー推進のための重点枠を設け、土別市CM作成事業などの新規2事業、土別まちづくり塾事業や子ども議会開催事業などの継続8事業、合わせて10事業を実施したところです。

また、国においては一億総活躍社会の実現に向けた緊急対策などの補正予算と当初予算を一体的に執行することで、切れ目のない経済対策が推進されたところであり、本市においても、この経済対策に歩調を合わせて、27年度補正予算による地方創生加速化交付金を活用したICT農業推進事業や合宿の里土別ステップアッププラン事業などを実施し、先駆的な地方創生事業の施策に取り組みました。

この結果、28年度一般会計及び各特別会計の歳入総額は265億638万2,000円、歳出総額は259億4,483万5,000円、収支差し引きでは5億6,154万7,000円となり、27年度決算と比較して、歳入で10億626万4,000円、3.9ポイントの増、歳出で9億3,910万9,000円、3.8ポイントの増となったところです。

これらの増額となった要因としては、歳入では、地方交付税が前年度比マイナス2.2ポイントに相当する約1億6,600万円の減となったほか、地方譲与税及び地方消費税交付金など各種交付金がマイナス6.8ポイント、約5,000万円減収した一方で、自主財源の柱である市税においては1.8ポイント、約4,000万円増収となったほか、普通建設事業の増に伴い、道支出金や市債などが増加したことによるものです。

歳出においては、いきいき健康センター建設事業や環境センター建設事業などの大型建設工事のほか、29年度までの2カ年事業となるつくも団地B棟整備事業の着工、多寄地区及び上土別地区における農業集落排水施設整備事業などの実施により増加したものです。

次に、各会計の決算について申し上げます。

一般会計については、歳入総額198億2,435万9,000円、歳出総額194億5,716万5,000円、収支差引3億6,719万4,000円となり、29年度に繰越すべき財源を差し引いた実質収支においては3億5,675万1,000円の黒字決算となりました。このうち1億8,000万円を地方自治法第233条の2の規定に基づき、財政調整基金に編入したところです。

国民健康保険事業特別会計については、税率の引き上げにより、一般会計から繰り入れすることなく、歳入欠陥補填収入対応分を全額解消したほか、共同事業交付金が増収した結果、1億1,212万5,000円の余剰金が発生したところであり、地方自治法第233条の2の規定に基づき、その全額を国保支払準備基金に編入しました。

国保会計においては、被保険者は減少しているものの、1人当たり医療費は増加している状況にあり、この間、段階的な税率改定により国保財政の健全化に取り組んできました。今後においても、30年度から実施される運営主体の都道府県化に向けて、新しい国保制度の円滑な移

行と国保財政基盤の強化に努めます。

このほか、後期高齢者医療特別会計を初めとする5つの特別会計についても、収支均衡、あるいは黒字決算となった次第です。

次に、水道事業会計決算について申し上げます。

初めに、事業概要についてです。

配水施設整備事業では、水量・水圧の安定確保を図るため、配水管新設工事を173.2メートル実施したほか、老朽管更新のための配水管敷設替工事を1488.5メートル実施しました。

温西地区整備事業・緊急時給水拠点確保事業では、災害時など緊急時の避難所となる給水拠点への安定給水を確保するため、耐震性のある管への更新工事728.2メートルを実施しました。また、温西ポンプ場の非常時における機能強化を図るため、老朽化した非常用発電機と動力計装盤の更新工事を実施しました。

計画最終年度を迎えた朝日地区簡易水道再編推進事業では、中央地区主要路線の漏水対策を図るため、老朽化した管の更新工事664.3メートルを実施しました。

新規の取り組みとしては、内大部浄水場の機能強化のため、ろ過施設と配水ポンプの整備を実施し、水処理能力の向上を図りました。

なお、有収水量の状況については、家事用で134万7,109立方メートル、家事用以外等で63万7,868立方メートル、全体では198万4,977立方メートルとなりました。

次に、財政状況についてです。

収益的収支について、消費税抜きで申し上げますと、収入では営業収益が3億3,943万5,000円で、このうち水道料金は3億1,988万1,000円となりました。

また、営業外収益では1億5,628万2,000円で、これらに岩尾内ダム管理費精算金の特別利益を加えた収入合計は4億9,572万5,000円となりました。

支出については、営業費用が5億594万4,000円、営業外費用が7,794万1,000円となり、特別損失2万3,000円を加えた支出合計は5億8,390万8,000円となりました。

この結果、8,818万3,000円の純損失が生じ、当年度未処理欠損金が9,024万4,000円となったところです。

次に、資本的収支についてです。

消費税込みで申し上げますと、収入は緊急時給水拠点確保事業等に伴う企業債2億390万円のほか、国庫補助金4,257万9,000円、補償工事負担金2,932万2,000円などを加えた収入合計は3億4,891万1,000円となりました。

一方、支出については、建設改良費として、配水施設改良費で9,366万3,000円、温西地区整備事業費で5,970万4,000円、朝日地区簡易水道再編推進事業費で6,329万3,000円、緊急時給水拠点確保事業費で4,212万9,000円、内大部浄水場改良事業費で1,737万7,000円、資産購入費で98万9,000円となり、企業債償還金1億4,934万円を加えた支出合計は4億2,649万5,000円となりました。

この結果、7,758万4,000円の資本的収支不足が生じましたが、過年度分損益勘定留保資金6,771万2,000円、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額987万2,000円をもって補填した次第です。

以上が平成28年度水道事業会計決算の概要です。

次に、士別市病院事業会計決算について申し上げます。

初めに、事業概要についてです。

平成28年度の病院事業は、長嶋新院長就任による新たな体制のもと、名寄市立総合病院と一層の連携強化に努めたほか、一般病棟60床、療養病棟88床を効率よく稼働させるため、他の急性期病院からの慢性期、回復期患者の受け入れや入院透析の受け入れなど、患者確保に取り組みました。さらに訪問診療、看護、リハビリなど在宅医療の強化を図ることにより、地域医療の充実と経営の改善に努めたところです。また、外来診療にあっては、内科予約外診療担当を当番で配置するなど、待ち時間の解消にも努めました。

こうした取り組みもあって、減少を続けていた入院患者数は前年度より2,186人、5.7%増の4万273人、1日平均110.3人となり、平成10年度以来18年ぶりに5%を超える患者数の増加となりました。しかし、地域内の人口減少などによって、外来患者数は前年度より6,361人、5.2%減の11万6,408人、1日平均479.0人となり、収益については入院収益では355万2,000円の増収となったものの外来収益で3,885万2,000円の減となり、医業収益全体では前年度より3,783万1,000円の減となりました。

一方、費用については、病床機能に応じた看護師の適正配置に努めるとともに、これまで出張医で対応していた当直等の業務を常勤医で行うなどの取り組みにより、人件費で8,318万円圧縮したなど、医業費用全体で前年度より5,447万9,000円の減とすることができました。

この結果、当初見込んでいた2億9,300万円の収支不足については1億700万円圧縮でき、1億8,600万円の一般会計繰入金追加によって、資金不足を発生させない決算となったところです。

次に、財政状況についてです。

まず、収益的収支ですが、消費税抜きで申し上げますと、収益的収入が33億4,197万2,000円、このうち医業収益は24億9,215万円となり、収益的支出では33億3,067万9,000円となった結果、収支差し引きでは1,129万3,000円の純利益となりました。

また、資本的収支については消費税込みで申し上げますと、資本的収入で3億7,725万4,000円となり、これに対する資本的支出は4億8,357万8,000円となった結果、1億632万4,000円の資本的収支に不足が生じましたが、過年度分損益勘定留保資金1,126万9,000円、当年度分損益勘定留保資金9,450万5,000円、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額55万円で補填したところです。

以上、平成28年度士別市病院事業会計決算の概要を申し上げますが、常勤医の確保や北海道からの医師派遣のほか、病棟再編による入院患者の増など、一部経営状況の好転が見られた

ものの、一般会計からの繰入総額は10億円を超え、依然として厳しい状況が続いています。今後も、地域医療構想を受けて見直しを行った新経営改革プランに基づき、地域の医療需要に応えるとともに、地方公営企業法の全部適用移行などのもと、更なる経営の改善を図り、地域から信頼される病院の運営に努めてまいります。

以上申し上げまして、平成28年度各会計決算認定に関する説明といたします。

よろしく御審議の上、御承認のほどお願い申し上げます。（降壇）

○議長（丹 正臣君） お諮りいたします。ただいま、議題となっております認定第1号から認定第9号までの9案件を審査するために、委員会条例第6条第1項及び第2項の規定により、議会に全議員をもって構成する決算審査特別委員会を設置し、これに付託の上、閉会中継続審査にすることにしたいと思っております。

これに御異議ございませんか。

（「異議なし」の声あり）

○議長（丹 正臣君） 御異議なしと認めます。

よって、認定第1号から認定第9号までの9案件は、議会に全議員をもって構成する決算審査特別委員会を設置し、これに付託の上、閉会中継続審査とすることに決定いたしました。

引き続き、決算審査特別委員会正副委員長の選任を行います。

この選任につきましては、委員会条例第8条第2項の規定により、議長が会議に諮って選任することとなっておりますので、正副委員長の御氏名を申し上げます。

決算審査特別委員会委員長に井上久嗣議員、副委員長に喜多武彦議員を指名いたします。

お諮りいたします。ただいま指名したとおり、選任いたしたいと思っておりますが、これに御異議ございませんか。

（「異議なし」の声あり）

○議長（丹 正臣君） 御異議なしと認めます。

よって、ただいま指名したとおり選任することに決定をいたしました。

それでは、ここで正副委員長に選任されましたお二人に御挨拶をお願いいたします。

初めに、決算審査特別委員会、井上久嗣委員長、御登壇の上、御挨拶をお願いいたします。

○決算審査特別委員長（井上久嗣君）（登壇） 委員長就任に当たりまして、一言御挨拶申し上げます。

ただいま、平成28年度の決算審査特別委員会が設置され、議員の皆様にご推挙賜り、委員長を就任することとなり、その重大な責務に身の引き締まる思いをしているところでございます。

さて、本市の財政は年々厳しさを増す状況であります。この28年度の決算をしっかりと審査し、更には検証されてこそ、今後の市政発展につながるものと確信をしております。まち・ひと・しごと創生総合戦略においても使われていますP D C Aサイクルを議会に例えますと、P、プラン計画をチェックするのが予算審査、D、実行された事業を決算審査でC、チェック評価し、A、アクト改善を求める集中審議の場が、まさしく決算審査特別委員会の神髄で

はないでしょうか。

そのためにも、議員の皆様方にはさまざまな角度から建設的な議論をされますことと、理事者の皆様方には端的で前向きな答弁を心より望む次第です。

また、報道機関の皆様には、市民の皆様方に的確に報道されますことをお願い申し上げまして、委員長就任の挨拶といたします。

どうぞよろしく願いいたします。（拍手）（降壇）

○議長（丹 正臣君） 次に、喜多武彦副委員長、御登壇の上、御挨拶をお願いいたします。

○決算審査特別副委員長（喜多武彦君）（登壇） おはようございます。

ただいま、決算審査特別委員会が設置され、副委員長の職を仰せつかりましたので、お許しをいただきましたので一言御挨拶をさせていただきます。

この職務の、責務の重さを痛感するとともに、身の引き締まる思いでございます。

厳しい財政状況の中、予算が生まれ、粛々と執行されてまいりました。適正に執行がされているのか、さらには市民の生活向上と本市発展にどのように役立てられたのか、あるいは費用対効果はなどなど、委員各位には建設的かつ活発な意見、発言を、理事者には、明快な答弁をいただけることを期待いたします。

井上委員長の御指導のもと、この任を微力ながら全うさせていただきとうございますので、委員各位には本委員会の運営、進行に対し、特段の御理解と御協力をお願い申し上げ、まことに簡単ではございますが、副委員長就任に当たり一言の挨拶にかえさせていただきます。

どうぞよろしく願いいたします。（拍手）（降壇）

○議長（丹 正臣君） 次に、日程第2、意見書案第5号 林業・木材産業の成長産業化に向けた施策の充実・強化を求める意見書について、意見書案第6号 軽油引取税の課税免除特例措置の継続を求める意見書について及び意見書案第7号 道教委「新たな高校教育に関する指針」を抜本的に見直しすべての子どもに豊かな学びを保障する高校教育を求める意見書について、以上3案件を一括議題に供します。

本案については、提案者の説明を省略いたします。

質疑に入ります。

御発言ございませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（丹 正臣君） それでは、これより採決に入ります。

本案については、原案のとおり決することに御異議ございませんか。

（「異議なし」の声あり）

○議長（丹 正臣君） 御異議なしと認めます。

よって、意見書案第5号から意見書案第7号までの3案件は原案のとおり可決されました。

○議長（丹 正臣君） 以上で、本定例会に付議されました案件の審議は全部終了いたしました。
平成29年第3回定例会は、これをもって閉会いたします。
（午前10時30分閉会）

以上、本会議のてん末を記載し、その相違なきことを証するため、ここに署名する。

平成29年10月27日

士別市議会議長 丹 正 臣

士別市議会副議長 谷 口 隆 徳

署 名 議 員 国 忠 崇 史

” 山 居 忠 彰

” 十 河 剛 志